

學大科法學大國帝都京

叢論濟經

號一第 卷七第

行發日一月七年七正大

論說

剩餘價格ノ成立……………法學博士 河上 肇

相續稅批評ノ重點(一)……………法學博士 神戶 正雄

扶養義務力救貧籍力……………法學博士 財部 靜治

さんちかりずむ概論(一)……………法學士 河田 嗣郎

黃宗義ノ政治經濟思想(一)……………法學士 小島 祐馬

經濟的行爲ト道德的行爲トノ關係(六)……………法學博士 田島 錦治

分業論(一) 福田博士ノ教ヲ請フ(二、完)……………文學士 高田 保馬

時事問題

小口落禁止問題……………法學博士 戸田 海市

軍需工業動員法ニ就テ……………法學士 櫛田 民藏

雜錄

英吉利ノ豫算……………法學士 河田 嗣郎

南露ニ於ケル獨逸住民(二完)……………文學士 長 壽吉

かあらいるノ「過去及ビ現在」……………文學士 石田 憲次

戰費調達問題(一)……………法學士 小島 昌太郎

南露ニ於ケル獨逸住民(二、完)

長 壽 吉

余ハ前節ニ於テ露西亞殊ニ南露ニ於ケル獨逸民

雜 錄 南露ニ於ケル獨逸住民(二、完)

移住ノ動機、及其第十八世紀ニ於ケルモノ一般ヲ記述シタガ、第十九世紀ニ至ツテハ露西亞及獨逸ニ於ケル事情ハ、前世紀ニ於ケルモノトハ大ニ其趣ヲ異ニシテ來タノテアル。第十九世紀初頭、露帝あれきさんざる第一世ハ、獨逸民ニ對シテ前時代ヨリハ稍組織的ナル政策ヲ有シ、能ク獨逸文化ヲ輸入シテ、獨逸人ノ所謂「北方ニ開カレタル窓」ヨリ自國ノ開發ニ資スルノ、文化浸漸ノ道ヲ作リタルノミナラズ、當時已ニ露西亞内地ニ定住シ居ル獨逸民ニ對シテ、信仰ノ自由、兵役ノ免除、又物質的保護ヲ與ヘ、其産業ヲシテ隆盛ニ至ラシメタノテアル。故ニ同皇帝ノ招致ニ應ジテ、露國ニ移住シタル獨逸民ハ、一八一〇年代ニ實ニ二十五萬ヲ超エ、北西露西亞ノ如キハ移住者多クシテ、露國政府ハ之カ定居ノ地ヲ指定スルニ困難シクト云事テアル。露國政策ノ既ニ斯クノ如キ時ニ當テ、獨逸ハ恰モなほれをん戰爭ノ爲ニ、國民の統一ノ上ニ一ノ障害ヲ與ヘラレテ居リ、且ツなほれをんノ大陸封鎖ハ中央獨逸及北獨逸ノ商工業ヲシ

テ、一時的ノ大打撃ヲ與ヘタルノミナラズ、亞米利加移住ノ道ヲ不可能ナラシムルニ傾イタルアル故ニ、獨逸民カ戰亂ノ禍比較的少ク、且大陸封鎖ノ影響少キ地方則東方露西亞ニ移住セムトスル傾向ヲ、其本來ノ「獨逸的移住好き」ノ上ニ築キ上ケタノハ、自カラ明カナル事ト謂ハネバナラス。爰ニ南露ノ方面ヘノ移住動機ニ關シテ奇妙ナル事實ノ存スル事カアル、歐洲史ニ於ケル宗教的熱狂ノ氣運ハ、既ニ十七世紀末ニ於テ殆其終熄ヲ來シテ居ル、而モ唯理の時代ヲ經過シテ、科學ノ稍盛大ナラムトスル第十九世紀初頭ニ於テ、中獨逸及南獨逸ニ於テハ、東方聖地ニ至ラムトスル一種ノ宗教的熱狂ノ流行、或ハ一種ノ迷信カ存シテ居ツタ、實ニ之ノ氣運ハ多數ノ移住者ヲ東方ニ送り、彼等ハ聖地ニ至ラムトシテ中途南露ニ定住シ、或ハ遠クかうかす地方ニ達シタモノモアツタノテアル、故ニ彼等ニハ家ヲ築キ耕作ニ從事シテ定住生活スルノ途ニ出ツルモノ少ク、恒ニ移動セムトシタ爲ニ、移住民ヲ招致シテ土着セシメ以テ生産的住

民タラシメムトスル露西亞ノ政策ノ行ク所ハ、終ニ武力ヲ以テ之ヲ威壓シテ定住セシムルノ已ムナキニ至ツタ場合カ多カッタト謂フ。之ハ餘談デアアルガ、要スルニ之等ノ動機ニ由テ第十九世紀ノ間、獨逸民ノ露西亞殊ニ南露ニ定住シ、獨逸民部落ヲ作ルモノ甚多ク、世紀末ニ至テハ百萬ヲ超エ、村落ヲ作り都會ニ住居シ種々ノ職業ニ從事シテ、經濟上ノ一勢力ヲ形成スルニ至ツタノテアル。

斯クノ如クシテ北西露西亞ニ於テハ、一八〇九年頃くらおんしたつと植民地カ作ラレタル以後、十年間ニ多數ノ獨逸民ハつあるすこえせる市ニ移住シ來リ、又首都ニ近クねわ河南岸ニすとりえるな、べてるほゝふ及おらにえんばうむ諸都市ヲ建設シ、殆ト首都ノ南西ノ周圍ハ獨逸民ノ殖民地ヲ以テ圍繞セラルルノ觀ヲ呈シ、ふいんらんど海南岸至ル所ニ獨逸人町ヲ見ルニ至リ、露西亞政府ハ之ヲシテ一部南方露西亞、殊ニいえかてりのすらぶ地方ニ送り住セシメサルヲ得サルニ至ツタノデアアル。而シテ又中央露西

亞ニ於テハ、第十八世期中葉以來多數ニ移住シ
來リタルヲをるが河中流ノ獨逸植民地ハ、次第
ニ社會的ニ發達シテ多數ノ宗教管區ヲ作ルニ及
ビ、其大部分ハ初メ大河西岸ノ丘陵ニ住居シテ
居ツタガ、一八四五年頃ヨリ大河ヲ超テ對岸ノ
沼澤地方ニ其村落ヲ作り、地域ノ耕作ニ勞苦多
ク且木材ニ缺乏セル爲ニ、動モセバ移動セムト
シタノテアルカ、露國政府ハ之ヲ保護シテ定住
セシムルト同時ニ、兵力ヲ以テ威壓シヌ場合ガ
多ク、且ツ年ヲ經ルニ從ツテ當テ移住民ヲ侵襲
シタル東方ぎるぎす族モ、彼等ト物資ノ交換ヲ
行フヲ便トスルヲ知ルニ至テ、一八六〇年代ニ
至テハ大河東岸ニハ獨逸人ノ經營スル耕地植林
地牧地等ヲ見ルニ至リ、殊ニ烟草栽培ヲ盛ニ行
フニ至ツタノテアル。今日さまら市ニ於ケル多
數ノ獨逸人商賈ト、其經濟的基礎トハ是等ノ植
民發達ノ歴史ノ背景ヲ有シテ居ル。

第十九世紀ニ於ケル獨逸移住民ノ重ナルモノハ
南露ニ於ケルモノデアル。前世紀ニ於テハ是地
方ニ甚シク多カラザリシ移住民ハ、第十九世紀

ニ於テ激増シタノデアル。一八一三年露帝ハ當
時ぶろいせん領ヨリ露領トナリタル舊ハいらん
ど領地ノ獨逸民ヲ勵マシテ、南露ベさらびあ地
方ニ住セシメ、住宅ノ建築ヲ補助シ、兵役ヲ免除
シ開墾ノ費用ヲ補助シタガ、其前後獨逸民ノ南
露ニ來住スルモノ相繼ギ、一八一七年しゆわ
つわろど獨逸民ノ凡千五百ノ一團ヲ爲シテ遠ク
いすまいるニ移住シタルヲ初メトシテ、第十九
世紀中葉迄其最多キハうゆるてんぶるど國人ヲ
以テシ、其他東方聖地ニ至ラムトスル獨逸民ハ、
或ハちふりすニ達シ行路ヲ土耳其民族ニ阻止セ
ラレテ定住シタルモノアリ、或ハ黑海沿岸ノす
うちゆむかれえニ達シテ定住シタルモノモア
リ、或ハ又中途熱病ヲ以テ斃ルルモノアリ、或
ハおでつさ市附近又たうりえん半島地方ニ留マ
ルモノモアツテ、當ニ十九世紀ニ於ケル小サキ
十字軍ヲ呈シテ居ツタノテアル。故ニ南露殊ニ
黑海沿岸ノ諸地、獨逸民ノ定住セサル所無キガ
如キ狀況デアツタガ、是間之ヲオノヅカラ三個
所ノ集團ニ分ツコトガ出來ル。第一ハ、ベさら

びあ地方デ、土地ハ豐沃デアルケレトモ元來游牧民カ荒廢ニ委シタル爲、是地方ヲ開拓スルニ移住民ハ大ナル困難ヲ有シ、漸ク雜樹ヲ植林シ水利ヲ整理シ果樹ヲ培養シテ、終ニハ次第ニ豐富ナル林產ヲ得ルニ至リ、葡萄其他ノ果樹培養ニ成功シ、牧畜殊ニ牧羊ニ巨萬ノ富ヲ得ルモノモ生シテ來タ。全然住居ノ狀態ハ獨逸風ニ行ハレ、各部落ノ戸長ハ行政且警察ノ權ヲ有シ、其上ニ總戸長ヲ置キ、數多ノ總戸長ハベサらひや監査官ニ統率セラレテ居ル。又第二ハ、へるそん・おでつさ地方デ、之地方ハベサらびあ地方產物ノ交易路ニ當ツテ居ル爲、且おでつさ市ガ黒海ニ於ケル交易路ノ咽喉ニ當ルカ爲ニ、移住民ノ職業ハ從テ商業ニ傾キ、大ニ殷富ヲ爲シタノデアル。今日之地方ニ於ケル獨逸民ハ猶經濟界ニ大ナル勢力ヲ有シテ居ル、人若シ地圖ヲ探リテ同市附近ノ地名ヲ檢シ、獨逸人住地ヲ檢セバ、全然獨逸起源タル地名、例セバふるいでんたある・ばあでん・すとらすぶるぐ・ふらんつぶえるど・あつけるまん・かあるするうえ等ヲ發見

スル、是等ハ實ニ皆當時移住民ノ稱シタル地名ヲ證スルノテアル。又第二ハ、えかてりのすらが地方デ、繁茂セル雜草ノ原野ニ植樹シタルモノ、幾多ノ困難ヲ經テ大森林ヲ生シ、盛ナル牧羊業起リ、果樹ノ培養ニ次テ桑樹ノ栽培ヲ始メ、從テ養蠶ヲ起シ、之ニ由テ殷富ヲ致シタモノ甚多カツタノデアル。以上ノ三地方ノ獨逸民ハ住居ノ狀況全然獨逸風ヲ守リタルノミナラズ、教育ノ狀況モ本國ニ法リ、多クノ國民學校ニ於テ、獨逸語ノ教授及獨逸史ノ教授ヲ行ヒ、露西亞語ハ副科ノ如クシテ居ツタノテアルカラ、正ニ小ナル獨逸領地ヲ形成シテ居ル。彼等カ舊住居民ヨリモ優等ナル文化ヲ有シテ居ル事ハ、舊住居民ヲシテ交通其他ノ用語ニ獨逸語ヲ使用セシムルニ至ツタ場合カ多カツタノテアル。南露則露西亞ノ物貨カ南方或東方ニ販賣セラルル地方ニ於テ、是等獨逸民ノ勢力ノ盛大ナリシ事ハ、必スヤ何等カノ意義ナクシテ終ル可カラサル所デアル。

諸種ノ旅行記或ハ地誌ニシテ、小亞細亞或ハあ

るめにあ或ハくるぢすたん山地ノ狀況ヲ説クモノヲ見ル時ハ、同地方ノ交通ニ用ヒラルル車ヲ重ニシテ、其他ノ物貨ガおでつさ、ばつうむ二港ヲ經タル獨逸人製品、殊ニベさらびあ地方ヨリ運輸セラレタルモノ多キヲ、記載スルモノアルヲ見ル事ガアル。南露ニ於ケル獨逸民ノ意味ハ、之ヲ以テモ觀察セラルルノデアル。又第十八世紀初頭以來ノ北獨逸ニ於ケル交通商業等ノ發展ヲ研究シ、わいくせる、おーだあ、えるべ三河ノ自然的位置ト、其交通ノ範圍等ヲ考フル時ハ、かるばあてん山脈以北及以北東ノ交通ガ、其南ノ方直ニどにえるて河ノ流域ニ接續シ、之カ更ニ南露獨逸民ノ活動地ニ相連ルコトヲ考ヘ得ルノテアル。故ニ近東問題ノ起ラザル以前ニ於テ、現今種々ノ問題ヲ作リツツアル歐洲ヲ北西ヨリ南東ニ截ツ所ノ政治而商業的交通路ハ、偶然ニ或ハ自然的ニ出來ツツアツタモノト思フ事が出來ル。斯クノ如クシテ余ハ南露ニ於ケル獨逸民ノ事柄ハ、將來ノ問題ニ關スルコトハ兎ニ角トシテ、歴史のニ且政治地理的ニ近代

誌ノ研究者ニトリテ、考察ヲ要スル所ノモノトスルノデアル。